

「コルトレインを聴く

「コルトレイン世代」とい
う言葉があるくらい、現在第
一線で活躍するジャズメンの
ほとんどに、はかりしれぬ影
響を与えたコルトレインが、
妙な言い方かもしれないが、
もっとも「コルトレイン」が
かった時期(の翌年から突
如「フリージャズ」に傾斜し

△(15)▽



ベイリーの知的な 人柄に魅せられる



レストラン・コンボで演
奏するデイブ・ベイリー

特異のアーティストとして、
今なお多くのジャズメンに支
持される盲目の白人ピアノ
トなのだ。そして生涯を通じ
てジャズクラブにほとんど出
なかつた人でもあった。
ところでアメリカやヨーロ

ポット」で、まるでリハーサ
ルみたいに納得ゆくまで同じ
曲を繰り返す自由奔放なチャ
ーリー・ミンガス・グループ
を聴いて次の朝、パークレイ
音楽院に留学中の渡辺貞夫に
電話した。

喜んだ彼が、すぐにでも会
いたいと言ってくれるのにな

に戻った夜、真っ先に訪ねて
来たのは、「サンビーム」の
オーブンカーで、さつそこと
乗りつけた黒人のドラム奏者
デイブ・ベイリーだった。

「ベイリーさん」と呼んで
いた彼の初めての出会い
は、それより二年前の六二年
にさかのぼる。

すいいテクニク

しだいに白熱していくブレ
イに僕も自然に身の引きしま
る思いになる。そして軽く三
十分を超したパワフルで、す
こいテクニクのソロに僕は
びっくり仰天してしまった
が、それもそのはず、評論家
こそつての評価は、「地味な
がら、最もステイディーで趣味
の良いドラマー」という風に
定着していて、レコードでも
ソロなどやったこともない男
だったからなんだ。

話が進むにつれ、ベイリー

が、工学部を出たあと、あら
ためて音楽院で勉強したとい
うちょっと風変わりな経歴の
持ち主であることが、なるほ
どどうなすけるような、おだ
やかで知的な人柄であることを
知って、すっかり魅せられて
しまった。

やがて彼は遠慮がちに、
「明日ドクターの家に遊びに
行きたいんだが」と切り出し
た。(内田 修)

てしまったからだ)が、しか
もその最終ステージに居合わ
せたなんて、まるで夢のよう
な出来事だった。その上、翌
日から「トリスターノ・グ
ループが出る」という。「コ
ルテンポラリー派」と呼ばれ
るトリスターノは、「ヒバツ
」を生んだパーカーから、
ほんの少し遅れて、それとは
別に高度の音楽理論を完成し

ッパでは、ふつとひとつのケ
グループが、一週間とか十日を
ひとくきりして連続同じク
ラブに出る。だから滞在在中
と何度も聴かれるぞと思っ
た僕は、翌夜は歩いて三十分
とはかからない「ファイブス

たえ、その午後ボストンに飛
び、お宅に泊まって三日間心
のこもったおもてなしを受け
たりは、小著「ジャズが
若かった」(2)にも書いたか
ら、(2)では繰り返すまい。

その年の二月、「ホレス・
シルバー・クインテット十
リス・コナー」というセット
に加わって初めて日本の土を
踏んだ彼は、名古屋でのステ
から来てくれないか。やれ

のいがいたからなあ。
ところが本当にかかって来
たんだよ、電話が。「今、名
古屋に着いたんだ。会いたい
から来てくれないか」。やれ

「レストラン・コンボ」に姿
を現した。このお店の雰囲気
がすっきり気に入ってしまった
てる、ギターの和田直樹